

新聞を利用したデータベースの活用

松崎寛幸*¹ 安原輝彦*² 土屋賢治*³
 本郷 健*⁴ 山下成明*⁵ 藤 眞裕*⁶

〈概要〉情報基礎の学習にNIE活動（Newspaper in Education、教育に新聞を）を取り入れ、データベースの学習を行った。生徒一人ひとりが新聞記事を選び、切り抜き、コンピュータに向かってデータベースを作成、その後データを結合させ、データの活用方法を学習し、新聞作成につなげる。

〈キーワード〉情報教育、情報基礎、データベース

1、はじめに

新聞は情報を伝えてくれる代表的なメディアである。新聞は私たちに、文字、写真、図、グラフなどを使いたくさんの情報を与えてくれる。それらの情報を手にし、読み眺め、いろいろな想像をめぐらせ主体的に理解できる媒体として、新聞は大きな役目を果たしている。また、新聞と並んで、最も一般的なメディアは、テレビ、ラジオ等である。動画や音を使いリアルタイムで迫力ある情報を私たちに伝えてくれる。今や私たちの生活には欠かせない情報メディアである。しかし、この種のメディアは、普通、大勢の人々向けに情報を伝え、個人向けではなく、一方通行の情報となっている。これらの情報メディアに対し、マルチメディアとして注目されているのがコンピュータである。コンピュータは双方向的で、問いかけや条件に対して、直接答えてくれる仕組みを備えている。コンピュータは、文字、写真、図、グラフ表示の他、現在では通信機能も備え、動画や音を扱うこともできるようになってきた。今や企業、教育機関ではコンピュータの導入が進み、これからは、家庭への普及も一層加速し、情報とコンピュータの活用方法や扱い方が益々大切になってくると思われる。

そこで、NIE活動（教育に新聞を）を通して、さらに情報教育と結びつける学習を考えてみた。情報教育の中にNIE活動を取り入れることは、今私たちが直面している生きた教育として、大きな役割を果たしていくものである。テレビ、ラジオ等の情報では得られない、新聞ならではのものを生かし、さらに情報教育の良さを取り上げていくことが大

切である。言い換えれば、新聞は文字を中心としたアナログ情報とすると、それに対しコンピュータの世界はデジタル情報である。このふたつの情報に触れることにより、身近な情報収集の手段である新聞に興味関心を持たせ、アナログ情報とデジタル情報とを統合した考え方や有効性について学習し情報を正しく判断していく力を身につけさせていきたい。新聞メディアを通して生徒が主体的に学習活動をし、それを支援していく道具がコンピュータである。NIE活動を通して情報を適切に扱いながら、新しいコンピュータの世界が広がり展開していくものと考え本題材を設定した。

2、研究方法

1) 授業実践対象

川口市立青木中学校 3年生（8学級）

男子 161名 女子 135名

合計 296名

2) 指導計画 情報基礎（30時間扱い）

- | | |
|-----------------|----|
| 1) コンピュータの役割 | 2 |
| 3) データベースの学習 | 13 |
| 4) プログラミングの学習 | 14 |
| 5) 情報化社会とコンピュータ | 1 |

3) 利用の意図と方法

コンピュータの利点を生かし、今回の取り組みであるNIE新聞データを紙上でまとめるとしたら、ページごとに、項目を決めて書き込み、必要な資料をはり付けたりする作業を必要とする。このまとめた資料をより多くの人たちに見てもらおうとすれば限界がある。しかし、コンピュータを使用してこれをデータとしてフロッピーディスクにまとめてしま

*1 MATUZAKI, Hiroyuki : 川口市立青木中学校

*3 TUTIYA, Kenzi : 川口市立青木中学校

*5 YAMASHITA, Sigeaki : 浦和市立大里小学校

*2 YASUHARA, Teruhiko : 川口市立青木中学校

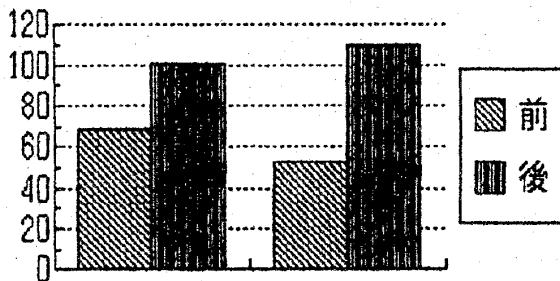
*4 HONGO, Takeshi : 川村学園女子大学

*6 FUJI, Masahiri : 入間市立西武中学校

えば、取扱いが簡単になり必要に応じて複製等もすぐにでき、簡単に広めることができデジタルデータとしての利点を生かせることができる。生徒にデータベースを扱ってもらい、選択、編集、挿入、表現、発信など進んで学習できる環境を保障すれば、自ら必要と思われる情報をコンピュータ上で交換し、意欲的に取り組むことができる。このことは、データベースソフトを活用して、情報の収集、検索、数的処理などを行う情報活用能力の育成につなげることができるはずである。

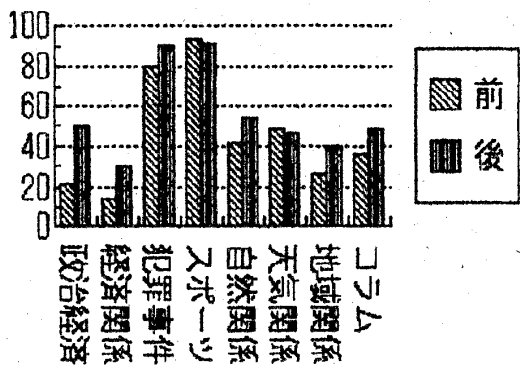
3、NIE活動前とNIE活動後の比較 NIE活動の前後の新聞に対する調査

グラフはの略



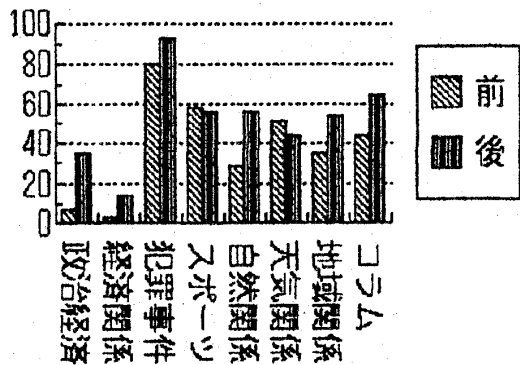
男子 女子
新聞記事の興味・関心について
男子 女子

グラフはの略



女子

グラフはの略



4、生徒の感想

・技術の時間にはじめて、パソコンを使って。操作方法もわからない状態からデータベースの勉強をして、各自が新聞の記事をつくることになり慣れない手つきで時間をかけながらも記事をまとめた。パソコンをつかった授業の中でもこの新聞データベースが一番興味があり、楽しいもので集中できた。操作方法はほとんどワープロと同じで慣れてくると以外に簡単だった。データベースはとてもやりがいのある楽しいものだった。

・いろいろな人の新聞記事があつて様々な見方をしていて楽しかった。どっちかという文字の多い方より少ない方が読みやすくまとめてあつたと思う。ジャンルが一緒でも、とらえ方が違うのでどれも新鮮に感じられた。以外に知らないことやドキドキする記事などあつて勉強になった。データベースを学んでやっぱり一番よかったと思うことは、見近にあつた気づかなかつたことを知つたことです。これからは、時間があるとき新聞を開いてじっくり読みたいと思う。

5、今後の課題

情報が満ちあふれる社会のなかで、自然な形で新聞の新鮮さ、情報の大切さをコンピュータと接しながら理解できる事は大変意義あることである。その便利さ必然性が受け入れられれば、情報教育を担当している者の最大の喜びである。

今回、「情報基礎」の中にNIE活動を取り入れデータベースの学習として取り組んだことは、新聞活用と身近なメディアを活用したため、生徒は興味関心をもって取り組めた。しかし、選んだ記事について意見や感想や入力された記事の内容について深く考えたりする場面が少なく、データそのものがまだまだ生かされていない。今後は、他教科での参考資料になったり、課題学習のときの情報源になったりと広がりを考えなければならない。データベースが、教科を越えた情報の活用資料として発展してもらいたいなど課題は山積みである。